

こゝろの空地に神壇を築（奥味を備ふ）平田
その社の社名を築玉池の水を酌て神あり
持て徳の祈禱を先年予も大座屋木の板
よりて空地におゐて雨を祈りし事この神
壇を引さるに申渡を流すその日神ありと
なりける歟

照玉乃此地の水をくみあげて

祈る心の度なりとありそ

当日領主より代官を下され大座屋木を具
して神壇のあり跡居を大座屋木と云ふと感

して予り方（き）りり山状の地を以て吉田
表へ江をくみりて神祇長上より此海流を
経て下さるるをくみりて神堂建立す此地により
て領主の御政を至る

一砂紙館

砂紙村より大山の地を武蔵家の支別方
殿丸といふ人の館なりを年館の内に長
徳寺といふ禪寺を建立僧を至に祀るる病
死を卜者より詢ふに館の祟といふ故より去
る此僧を集めて亡霊は依りて是を祟りて